

令和 2 年度

環境保全推進委員意見  
報告書



令和 3 年 10 月  
北海道

# 目 次

I	環境保全推進委員制度 .....	- 1 -
II	環境保全推進委員アンケート調査結果の概要.....	- 2 -
III	環境保全推進委員アンケート調査結果 .....	- 3 -
1	環境保全推進委員の活動について .....	- 3 -
2	環境配慮行動の普及について .....	- 5 -
3	エゾシカの有効活用について .....	- 7 -
4	その他 .....	- 9 -
IV	随時意見・質問.....	- 9 -

# I 環境保全推進委員制度

## 1 目的

環境保全推進委員制度は、北海道環境基本条例第27条第2項に基づき、道民参加のもとで道民の意見を環境関連施策に反映することを目的としています。

### 【北海道環境基本条例】

(道民意見の反映)

第27条 道は、環境の保全及び創造に関する施策に道民の意見を反映させることができるよう必要な措置を講ずるものとする。

2 知事は、道民の意見の反映等に資するため、環境保全推進委員を置くものとする。

## 2 概要

区分	内容	摘要
人員 選定方法	一般公募 140名以内	北海道の環境保全に関心を持ち、推進委員として活動する意欲のある者を選考するため、公募を原則とします。 ただし、各地域生活経済圏において応募者がいない場合は、当該圏域内の総合振興局・振興局長が推進委員として適当と認める者を、推薦することができます。
意見 聴取方法	・アンケート調査の実施 ・随時意見等の提出	具体的に設定したテーマに対する意見を環境保全推進委員から聴取（アンケート調査）することにより、環境問題に関わる意見や意向を把握し、環境施策に取り入れていきます。 また、環境保全推進委員は、日ごろ考えている環境問題に関する意見や質問などを随時、道に提出することができます。
情報提供	・環境情報の提供 ・行政情報の提供	地域で開催する環境講座等の開催情報など環境に関する情報を提供するほか、環境問題や環境行政の関連資料を配付します。

## 3 環境保全推進委員意見報告書について

令和3年3月に実施した「環境保全推進委員アンケート調査」結果及び令和2年度に提出された道の環境施策に対する随時意見・質問を「環境保全推進委員意見報告書」として取りまとめ、公表します。

なおアンケート調査結果及び随時意見については、今後の環境施策の立案や実施等の参考とします。

## II 環境保全推進委員アンケート調査結果の概要

調査対象者：環境保全推進委員48名（任期 令和元年3月19日から令和3年3月31日まで）
調査方法：令和3年3月1日に調査票を送付し、3月19日までに回答されたものを集計
回答：33名（回答率68.6%）

### 1 環境保全推進委員の活動について（問1～問4）

環境保全推進委員（以下、「推進委員」という。）は、個人的な取組のほか、所属する団体等での活動やセミナー等への参加などのほか、地域住民等に対する普及啓発活動などを行っている。

また、道からの情報提供については、役に立っているとの回答が多数だが、環境問題の核心に触れる情報が少ないなどという回答もあった。

### 2 環境配慮行動の普及について（問5～問10）

道民の環境配慮活動に対する意識について、2～3年前と比較して「高まっている」「やや高まっている」との回答が70%で、「変わらない」を含めると85%であった。

「やや低くなっている」「低くなっている」理由については、「持続性」や「経済との両立」が求められるようになってきており、環境問題を正面から取り組むことが少なくなったと感じるためとの回答があった。

道民の環境配慮活動について、2～3年前と比較して「増えている」「やや増えている」との回答が73%で、「変わらない」を含めると94%であった。

「やや減っている」「減っている」理由については、コロナ禍での在宅時間の増加により、目に見える活動が少なくなったと感じるためとの回答があった。

環境保全において、特に普及啓発が必要な分野について、上位3つの回答は、「環境教育の推進・環境にやさしいライフスタイルの定着」との回答が48%、「地球温暖化防止」「環境に配慮した事業活動の推進」との回答が39%であった。

### 3 エゾシカの有効活用について（問11～問17）

「エゾシカ肉処理施設認証制度」について、名前を知っている推進委員は82%であるが、内容まで知っている推進委員は36%にとどまった。

エゾシカ肉処理施設認証制度について、内容又は名前を知っていると答えた推進委員のうち、エゾシカ肉を購入する際に、認証マークのある商品を選んで購入するとの回答は56%であり、制度について認識している人でも意識して購入している人は多くない。

### 4 その他道の環境施策全般に対する意見（問18）

問1～問17のほか、道の環境施策全般に対する意見が24件寄せられた。

### Ⅲ 環境保全推進委員アンケート調査結果

#### 1 環境保全推進委員の活動について

問1 現在、どのような環境保全活動を行っているか？ (複数回答可)

	項 目	回答数
1	地域の住民等に対する環境に配慮した取組の実践を促す普及啓発活動	22
2	地域や所属している環境保全団体等で行われている環境保全活動への参加	20
3	道や市町村等の環境関連施策に対する意見等の提出	22
4	環境配慮製品の購入、省エネ・節電、ごみの分別、リサイクルなど個人の取組	26
5	セミナー等に参加して環境問題についての知識を深める	20
6	その他 ・建設コンサルタントとして環境保全等に配慮した業務提案・報告書の作成 ・海岸漂着ゴミの回収 ・地域の小学校、市の観光施設に切花を寄贈し、環境保全の必要性を伝える活動。市の環境講師としての活動。 ・地域の緑地の清掃保全 (要約あり)	4
7	特に行っていない	0

問2 今後どのような環境保全の活動を行っていきたいか？ (複数回答可)

	項 目	回答数
1	地域の住民等に対する環境に配慮した取組の実践を促す普及啓発活動	23
2	地域や所属している環境保全団体等で行われている環境保全活動への参加	25
3	道や市町村等の環境関連施策に対する意見等の提出	21
4	環境配慮製品の購入、省エネ・節電、ごみの分別、リサイクルなど個人の取組	23
5	セミナー等に参加して環境問題についての知識を深める	24
6	その他 ・社会教育の一環として、中学校現場で具体的取り組みの実践 ・町内会等への情報発信 ・海岸漂着ゴミ回収への活動を続け、子どもや地域への呼びかけを行う ・コミュニティ・スクールを活用した活動 など (要約あり)	5

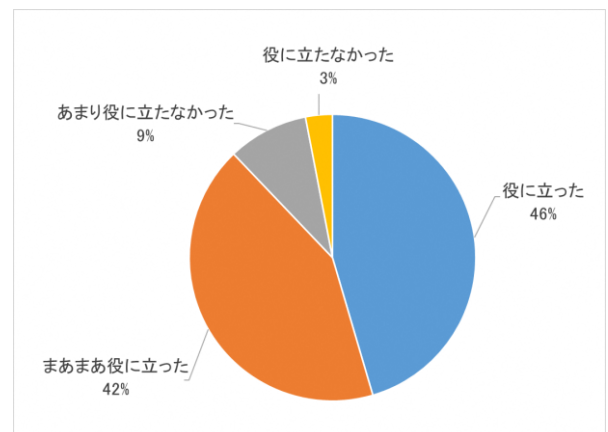
問3 環境保全推進委員制度にどのようなことを望むか？

(複数回答可)

	項 目	回答数
1	最新の環境問題等に関する話題の情報提供	26
2	環境保全推進委員が自主的に活動している環境保全の取組の紹介	23
3	道や市町村等の環境関連施策についての情報提供	25
4	環境保全に関する勉強会・セミナー等の開催情報の提供	23
5	普及啓発ツールの貸出等、環境保全推進委員の自主的活動の支援	22
6	その他 ・環境保全推進委員同士が情報交換を行い、交流するきっかけとなるフォーラム等の開催 ・子どもたちの環境への意識を高める具体的取組の実践 など (要約あり)	4

問4 道から送付された環境情報は、環境保全活動に役立ったか？またその理由

	項 目	回答数
1	役に立った	15
2	まあまあ役に立った	14
3	あまり役に立たなかった	3
4	役に立たなかった	1



○理由

<役に立った。まあまあ役に立った。>

- ・地域の環境に関するイベントスケジュールなどが事前にわかるため。
- ・地球環境の実態把握につながるため。
- ・自身の活動とは通常は接点がない分野の動向についても把握できたため。
- ・道から得られる情報は信頼性が高いため。
- ・環境白書を始め、各種計画の情報が取組に役に立った。
- ・環境情報により、他地域の細かな活動との比較が可能となったため。 など

(要約あり)

<あまり役に立たなかった。役に立たなかった。>

- ・説明が事務的で難しく、読みにくかったため。
- ・結果の報告がないため、どのような成果があったのか記載してほしい。
- ・実際の環境保全活動との結びつきが弱い情報が多いため。
- ・環境問題の核心に触れる情報が少ないため。
- ・推進委員同士が交流を持てる内容であるとより良い。
- ・環境保全活動イベント等の開催地が遠く、参加できないことが多いため。
- ・情報の具体性（地域における身近なことに）が感じられないため。 など

(要約あり)

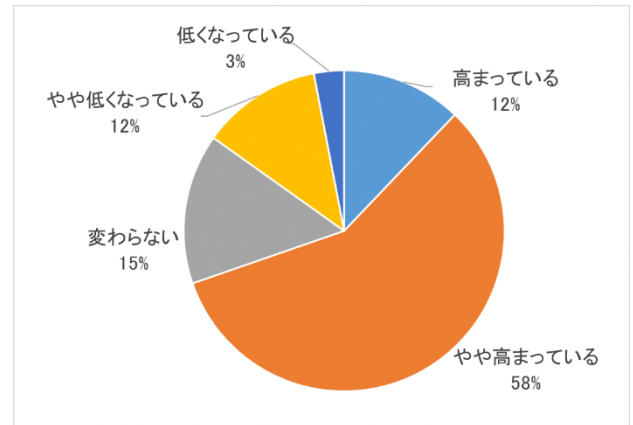
## 2 環境配慮行動の普及について

※環境配慮行動・・・日常生活において環境に配慮した行動を行うこと

道では、平成26年3月に「北海道環境教育等行動計画」を策定し、環境保全意識を持ち、主体的に行動できる人づくりを進めているところです。

問5 2～3年前と比較して、道民の環境配慮行動に対する意識は高まっていると思うか？

	項目	回答数
1	高まっている	4
2	やや高まっている	19
3	変わらない	5
4	やや低くなっている	4
5	低くなっている	1



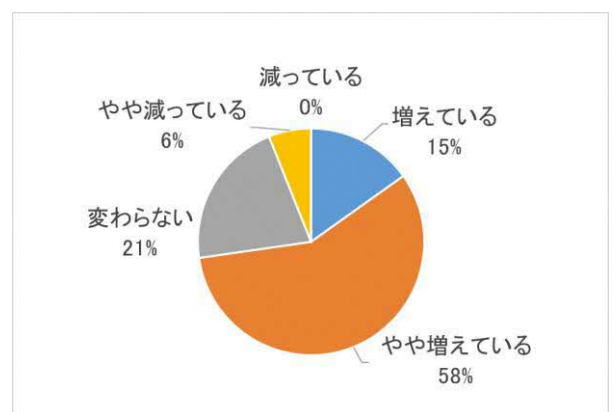
問6 問5で4又は5と回答した場合、その理由

- ・課題が多岐にわたっているため。
- ・昨今は「持続性」や「経済との両立」がキーワードとなってきており、環境問題を正面から取り組むことが少なくなったと感ずるため。
- ・海岸への放棄がなくならないため。

(要約あり)

問7 2～3年前と比較して、道民の環境配慮行動は増えていると思うか？

	項目	回答数
1	増えている	5
2	やや増えている	19
3	変わらない	7
4	やや減っている	2
5	減っている	0



問8 問7で4又は5と回答した場合、その理由

- ・コロナ禍で在宅時間が長くなったことにより、目に見える活動が少なくなったと感ずるため。

(要約あり)

問9 環境保全について、どのような普及啓発が必要だと思うか？

(複数回答可)

	項 目	回答数
1	地球温暖化防止	13
2	廃棄物の適正処理	10
3	3Rの推進	7
4	プラスチックゴミ対策	11
5	バイオマスの利活用	2
6	自然環境・野生生物の保護	12
7	生態系サービス（自然からの恵み）とその持続可能な利用	6
8	自然の驚異や野生生物による被害対策	4
9	水環境の保全	7
10	大気環境の保全	2
11	騒音・振動・悪臭防止・土壌汚染・地盤沈下対策	2
12	化学物質等による環境汚染の未然防止	0
13	環境に配慮した事業活動の推進	13
14	環境教育の推進・環境にやさしいライフスタイルの定着	16
15	その他 ・環境の価値に関する小中学生への取組や社会教育としての親への指導・支援。 ・循環型社会への積極的な取組  (要約あり)	2

問10 問9で回答したうち、最も必要と思うのはどの分野か？またその理由

【地球温暖化防止（回答数：5）】

- ・エネルギー問題や廃棄物問題、環境汚染問題、自然環境保全、ライフスタイルなど、全てに関連する最も分かりやすく重大な問題であるため。
- ・2050年のCO2実質ゼロを目指して道民意識の一層の向上が必要と考えるため。

【廃棄物の適正処理（回答数：3）】

- ・廃棄物の処理は、人間の衣食住と関連する重要な環境問題であるため。
- ・各自治体でのリサイクルは不十分であり、少しでも再生率を上げるような施策や予算を真剣に検討してほしいため。

【プラスチックゴミ対策】

- ・海洋ごみ問題を悪化させないよう、子ども・大人双方への啓発が必要と考えるため。

【バイオマスの利活用】

- ・未利用資源の活用やリサイクル関連の産業を育成・振興する必要があるため。

【生態系サービス（自然からの恵み）とその持続可能な利用】

- ・地域の自然環境循環を向上させることで、生態系サービスを公平に授受できると考えるため。

【自然の驚異や野生生物による被害対策】

- ・ヒグマ・シカ対策が必要と考えるため。
- ・高山植物の盗掘が目立つため。

【水環境の保全】

- ・生物・植物のすべてに影響するため



【環境に配慮した事業活動の推進】

- ・環境保全に対する理解が定着していない企業がまだまだ存在することから、環境に配慮する企業の母数を増やす取組が必要と考えるため。
- ・資金面から前進できない事業に対して、補助金や助成金をもっと申請しやすくしてほしいと考えるため。

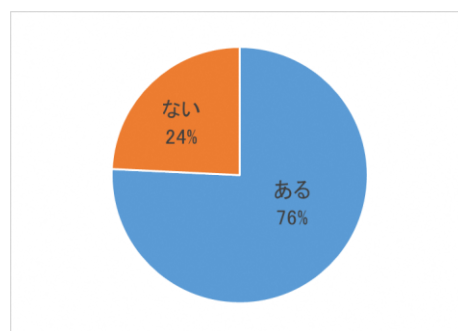
【環境教育の推進・環境にやさしいライフスタイルの定着】

- ・次世代となる児童や生徒を対象にESDの視点に立った環境教育を実践することで、環境保全の重要性を将来につなげていくことができると考えるため。
- ・若い世代では環境と自分の生活とが深く関わり合っているとの認識が低いと感じることから、環境教育や啓発講座が重要と考えるため。
- ・様々な環境課題を次世代につなげて、取り組んでもらえる環境教育をオール北海道で推進することが大切であると考えたため。
- ・環境を保全していくには、子どもの頃から具体的な育成の場が必要と考えるため。

### 3 エゾシカの有効活用について

問 11 エゾシカ肉を食べたことがあるか？

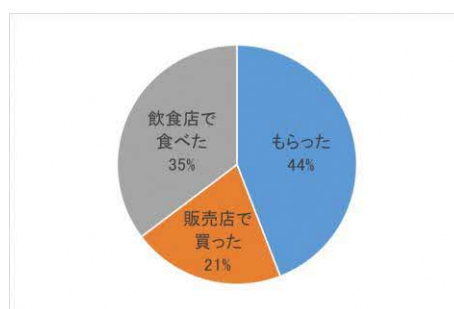
	項 目	回答数
1	ある	25
2	ない	8



問 12 問 11 で 1 と回答した場合、どこで入手又は食べたか？

(複数回答可)

	項 目	回答数
1	もらった	15
2	販売店で買った	7
3	飲食店で食べた	12



問 13 問 11 で 2 と回答した場合、その理由

(複数回答可)

	項 目	回答数
1	食べる機会がない	6
2	おいしくなさそう	2
3	価格が高い	0
4	安全性に不安がある	0
5	その他	0

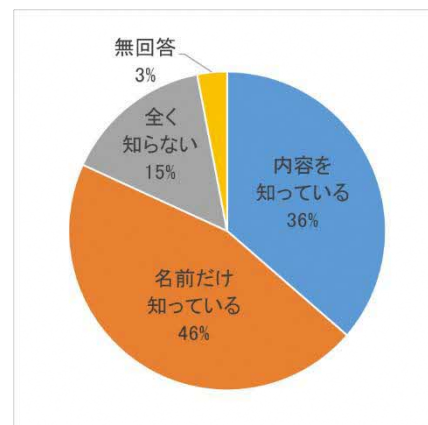
問 14 問 13 で 3 と回答した場合、いくらであれば購入するか

	エゾシカ モモ肉 100g あたり	回答数
1	200円以下	0
2	300円以下	0
3	500円以下	0
4	800円以下	0

※ 該当者なし

問 15 「エゾシカ肉処理施設認証制度」について知っているか？

	項 目	回答数
1	内容を知っている。	12
2	内容は知らないが名前だけ知っている。	15
3	全く知らない。	5
4	無回答	1



問 16 問 15 で 1 と回答した場合、次のうち当てはまるもの

(複数回答可)

	項 目	回答数
1	認証施設は、高度な衛生管理を行う施設であることを知っている。	12
2	認証施設は、北海道 HACCP で A 評価以上を取得している施設であることを知っている。	7
3	認証施設から出荷されたエゾシカ肉や加工肉に表示される「認証マーク」を知っている。	6
4	その他	0

問 17 問 15 で 1 又は 2 と回答した場合、エゾシカを購入する際に認証施設で生産された商品又は認証マークのある商品を優先的に選んでいるか？

	項 目	回答数
1	認証マークのある商品を選んで購入する。	15
2	特にこだわりはなく購入する。	4
3	購入しない。	8

## 4 その他

### 問 18 道の環境施策全般に対してのご意見

- ・特に SDGs や COP、パリ協定など、持続可能な社会の形成に向けて、国際的に取組が強化されてきているところであるが、道においても、経済団体、市民団体、各市町村と連携をより一層強化しつつ、北海道特有の環境（積雪寒冷地）に適した都市と自然が調和した自然共生社会の実現に向けて、横断的・総合的政策を構築して欲しい。
- ・道民の各層が理解できる具体的な政策を立て、実践して欲しい。
- ・ノーレジ袋、マイバッグ持参運動の時のような、具体的で全道的な指針と支援をいただきたい。
- ・環境を保全する行為そのものに力を入れてほしい。
- ・広く道民の意見を伺う機会を増やすべきである。
- ・もっと広報をしてほしい。
- ・環境生活部のページを含め北海道の HP をもっと見やすくしてほしい。
- ・啓発イベントなどは、常に間口を広げるよう、大きなイベントに拘らず小さくても頻度を高め、いろいろな人の目に触れる機会を増やすことに力を注いでほしい。
- ・地域での少人数のボランティア活動には限界があることから、次世代につながる活動等には、協力・支援をお願いしたい。
- ・在来希少植物保護や野生動物保護の大切さと、共存の必要性を広く PR してほしい。
- ・野生動物への餌付けの問題に取り組んでほしい。
- ・若い世代が取り組みやすく魅力を感じるような持続可能な産業（住宅等への木材の利活用、バイオマスエネルギー、魚介類の養殖等）の制度をつくってほしい。
- ・気候変動適応計画、地球温暖化対策推進計画など環境基本計画に準ずる計画が数多く策定されているため、これらの相互関係、関連性のチェックを定常的に行う必要がある。また、自然環境保全や生態系保全の計画や、道独自のエネルギー計画があるとよい。
- ・環境保全推進委員の知識を深め、地域活動の推進や普及啓発につなげるため、環境実態調査研修を実施したよいのではないか。
- ・全道を花で飾る事業の推進を希望する。 など

(要約あり)

## IV 随時意見・質問

### 1 随時意見・質問 なし

## 令和2年度環境保全推進委員意見報告書

編集 北海道環境生活部環境局環境政策課企画調整係  
住所 〒060-8588 札幌市中央区北3条西6丁目  
電話 011-204-5188